

公表

## 事業所における自己評価結果

事業所名		ハッピーテラスキッズめだかのこころルーム				公表日	2026年3月10日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		支援室と活動室をしっかりと分けており集中して取り組みやすい環境になっている。	既存の環境下で工夫し有効活用していく。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。		○	10月より送迎業務担当要員を1名配置し、トレーニングに専念できる環境を整えた。	・基準は満たしているが、より手厚い支援提供のためには、職員数は増やしていく必要がある。 ・園と事業所の連携職員の配置など、新たな仕組みも検討していく。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		活動に集中できる空間、指示の通りやすさを考えた構造になっている。	バリアフリーではあるが、トイレ前に急な斜面がある。(滑り止めで対応を行う)	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		・清掃を定期的に行い、清潔な状態を維持できている。 ・小範囲ではあるが、運動遊びも十分にできる。	引き続き定期的に清掃、整理整頓に努める。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		相談室、見学室が2つあり、支援室はパーティションで最大4つに区切ることができる。	パーティションが重く、個別の空間作りは重労働。もう少し軽小なパーティションがあっても良い。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	○		職員間で話し合いができる環境がある。	PDCAサイクルが十分にできているとは言いがたいので、より、質の高い業務運営ができるよう努めていく。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		定期的に保護者の方にアンケート、アセスメントの記入をお願いしている	引き続き定期的の実施し、ご意見には真摯に向き合い業務改善に繋げていく。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		・毎日ミーティングを行っている。 ・気付いたことを、気付いた人がすぐに提案し、スピードを持って改善できるよう心掛けている。	定期的にテーマを持った話し合いの時間を持つ。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○		第三者評価の実施は今のところ実施予定はないが、外部からの意見や評価には真摯に対応していく。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		弊社の実施している研修等に定期的に参加している。	職員数の関係で外部の研修に出る機会が少なく、必要最小限の研修にとどまっている。研修に参加できるよう時間の確保や体制作りを工夫していく。	
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		・支援プログラムを本部のHPに公表している。 ・契約時、保護者アンケート実施時に、文書で渡して周知を図っている。	支援プログラムの公表先を周知し、定期的に見直し改善を図っていく。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	○		個別支援計画作成時、または、日々の支援等で、アセスメントへの記入や個別相談を通じてニーズを把握し、面談で確認している。	引き続き、面談による丁寧な聞き取りと、利用児自身のニーズや思いを汲み取り、支援計画を作成、見直しを行い、より良い支援に繋げていく。	
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		・日常的に職員が意見交換できる環境作りに努めている。 ・策定会議は職員全員で行い、可能な時は連携園の職員にも参加してもらっている。	策定会議には、できるだけ多くの関係者が参加できるよう日程調整などを工夫する。	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		計画を共有した上で、それに基づいた支援を行っている。	職員全体として、経験値の低さから悩みや葛藤があるため、互いに意見を出し合い計画に沿った支援が行えるよう職員間の情報共有を図っていく。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		保育所等訪問で見えてくる課題を事業所職員に共有している	弊社システムをまだ十分活用、使用できていない。	
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		・児童発達支援ガイドラインに沿って、5領域を基にした支援計画を作成している ・職員全員で策定会議を行いねらいや具体的な支援内容を決めている	5領域や「本人支援」「家族支援」「移行支援」「地域支援」の言葉と内容について、個別支援計画説明時に丁寧に説明をする。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		・単独で行う場合もあるが、職員間で共有の時間を持ち話し合って立案している	日常業務のみに追われることなく、話し合いの時間をしっかりと確保する。	

児 供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		・集団トレーニングでは季節に合ったトレーニングやテーマを話し合って決めている。 ・職員間でアイデアを持ち寄って立案し、POCAサイクルを意識して実践している。	「個別トレーニングでは固定化されてしまう」「経験不足からアイデアがなかなか浮かばない」などの悩みがあるため、トレーニング内容についてもっと話し合う時間、機会の確保に努める。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	○		個々の状態や課題に合わせて、個別支援計画を作成し、定期的に更新している。	個別トレーニングの枠が少ないため、来年度は個別トレーニングを増やすと同時に、必要な利用児には空コマを活用し、個別トレーニングが利用できるようにする。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		毎朝共有する時間を設定し周知している。	トレーニングで使用するものを見せるなど、より詳しくトレーニングのねらいや内容を伝え共有していく。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		支援終了後に行う時間的な余裕がこないため、休憩時間、隙間時間の活用により、雑談レベルでの情報共有、意見交換を常に行っている	終了後は送迎と記録の時間に費やされ、十分な時間の確保が難しい。来年度は金曜日のトレーニング終了時間を早め、振り返りの時間を持つようにする
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		弊社システムを活用し、その日のトレーニングの反省・記録は、その日に記入し、タスク管理を行っている	今後デコボコメンバーズの活用により、業務の省略を図っていく。
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		弊社システムを活用し、個別支援計画更新時にモニタリング。短信（振り返り）を作成している。	3～4カ月の見直しを確実にやっていく。
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		現状は相談支援員と児童発達管理責任者で行うことが多いが、状況に応じて参画できるようにしている。	会議の事例が少ない。
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		保育所等訪問を積極的に行い、連携とは密な連携を持っている。また、必要に応じて他の事業所や医療機関にも積極的に見学に行っている。	体制は整えているが事例が少ない。医療機関については、保護者から情報を得ることが多く、直接連携することが少ない。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		・連携とは定期的に情報共有・意見交換の時間は設けおり、毎回ではないが、策定会議にも参加してもらっている。 ・必要に応じて他の事業所や医療機関にも積極的に見学に行き、自事業所だけにとどまらない支援を心掛けている。	引き続き、インクルージョン推進の観点から、こどもの最善の利益を考えた支援が提供できるよう、関係機関と密に連携していく。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		年長児の進路については支援シートの記入や園と連携し情報共有と保護者の相談にのっている。	就学先の小学校との直接のやり取りはないが、機会があれば積極的に参加する。
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	○		今年度は案件なし。	研修には定員オーバーで参加できなかった。今後そのような機会があれば参加したい。
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	○		連携とは十分に交流できている。	地域との交流は機会がなく今後の課題。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		フィードバック、モニタリングを通じて、面談だけでなく、書面を通じて保護者の意向を確認している。	来所回数が多い保護者様とそうでない保護者様の感じ方に差が見られている。少ない保護者様にも実感していただけるように努める。
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○			研修には定員オーバーで参加できなかった。今後そのような機会があれば参加したい。	
35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		契約時に行っている。		
36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		フィードバック、モニタリングを通じて、面談だけでなく、書面を通じて保護者の意向を確認している。	子ども本人の意思やニーズを、もっとくみ取り支援計画に反映させるよう努める。	

保護者への説明等	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	○		支援計画の作成、更新時に、説明を行い同意を得ている	引き続き、保護者様の同意を得た上で、支援計画の作成、更新を行い、より効果的な支援が提供できるように努める。
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		・支援計画の更新時だけでなく、希望に応じて相談等にも随時対応している。 ・保護者が来所時には面談や子育てサポートを積極的にやっている。	必然的に来所回数が多い保護者様とそうでない保護者様の感じ方に差が見られている。少ない保護者様にも相談の機会がもてるよう工夫していく。
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	○		・保護者参加のイベント実施している。 ・きょうだい児のトレーニング見学や見学室で過ごすことも可能にしている、きょうだい児も自由に事業所に入浴できている。	保護者同士の交流の場は少ないため、イベントなどを通じて交流できるよう工夫していく。
	40	こどもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		苦情受付窓口、担当者を整備、掲示している。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		体制が不十分で活用できていないが、必要な情報は、紙ベース（お便りやメモ）や直接お会いしたり電話でお伝えすることで、対話を大事にしている。	弊社のシステム、HP、SNSの活用がまだ不十分。今後デコボコメンバーズの活用やHPの充実を図っていく。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		・個人情報鍵付ロッカーに保管している。 ・送迎時に持ち出す連絡先などの個人情報は、ファイルに綴じ入れ職員が携帯する	今後も個人情報の取り扱いには充分留意していく。
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		現状は障害の重い利用児がいないため、主に視覚支援を中心としたツールを活用している。	今後も利用者にとって分かりやすい方法を工夫し、配慮していく。
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○		事業所の性質上どの程度開放的であって良いか判断が難しいため、地域住民を招待する機会は今のところ考えていない。	別の方法で地域にも貢献できる事業所を目指したい。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		契約時に重要事項に掲載されている範囲で保護者には説明している。	今年度は1年目のため、今後定期的に見直しを行っていく。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○			BCPについては作成途中。完成を急ぐ。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		契約時に確認している。	・把握はしているが、より重要事項と考えて定期的に保護者に確認する必要がある。 ・対応が必要な場合に備えて、研修等を行う。
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		契約時に確認している。今年度は対象児はいない。	・定期的に保護者に確認し、対応方法については研修を行う。 ・クッキングなど食材を扱う活動は、現行では実施しない方向。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		避難訓練は年2回以上実施。園と連携し起震車の乗車、引き渡し訓練も実施している。	鍵の位置、施錠面に不安点あり。
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○			安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知ができていない。弊社の指導を受け周知を図りたい。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		今年度は大きな事案はなし。環境面での補修、改善は速やかに行っている	・ヒヤリハットが発生した場合は、職員間で共有を行い、対策会議を行い、記録を残す。 ・小さな気づきを大切に、アクシデント予防に努める。
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		定期的な研修、訓練に参加。虐待チェックリストの実施。	引き続き、定期的な研修、訓練、虐待チェックリストの実施を行い人権意識を高めていく。
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	○		現状は事案がないが、今後事案が発生した場合は、同意書の作成や説明を行える体制を整えている。	事案が発生した場合は、同意書の作成や説明を行う。